

進路指導部会

岩井 紀子

「原発」問題と教育

―わたしたちが今、すべきことは―

左記は、進路指導部会の目標です。

- 1、子どもの学習や生活を見つめる。
- 2、都立高校の入試制度の実態と検討。
- 3、都立・私立高校の実態を考える。
- 4、子どもが「教育政策」のもとでどのように変えられようとしているのかを明らかにする。

部会は月一回、第四木曜日に開いています。一月は特別公開講座「ヒロシマからフクシマを考える―今、教師がすべきことは―」と題して、高橋信雄先生（元全教広島委員長・広島県原水協代表理事）に、お話をさせていただきました。以下、講演の一部を紹介します。

政府が無視する内部被曝

遠距離で被曝した人や救援・肉親探し

などで原発の爆発後に広島市内に入った人たちは放射線の微粒子を呼吸や食物を通して体内に取り込み、放射線障害（内臓機能低下など）を起しました。これを内部被曝といいます。日本政府やアメリカは内部被曝を原発によるものと認定していませんが、これに苦しむ被曝者は「被曝者集団訴訟」でたまたか、「政府は内部被曝の理念に立った被曝者行政を」という判決を勝ちとってきました。

今、ヒロシマの到達点に立って、フクシマの保障と救済に取り組むことが求められています。また原爆投下後のデータの隠ぺい・改ざんなどはフクシマでの政府・東電の対応と重なります。加害者を明確にし、政府・東電に責任をとらせることが問題解決の第一歩です。そして甲狀腺被害が明らかになるのは十年後ですから継続して検診し、記録していくこ

とも大切です。

真理を追及し、真実に立脚

広島県府中市は「全国学力テスト」の結果が県で一番。そこで市長交際費で紅白饅頭を配り、問題になりました。マスコミも平均点が上がったことだけを評価、ひとり歩きをさせ、それについての検証は一切しません。実態は「できない子に期待はできないからほったらかし。できる子がより高い点を取る策を」と教員を追い立てているそうです。真理の追及が置き去られ、点数上げにまい進する。これが教育のあるべき姿でしょうか。

今、教育現場では、政治的に定められた価値観がすべてであるかのごとくふるまいが幅を利かせています。「私が正しくないと思うのなら選挙で落とせ」と言わんばかりに。教育の営みは政治から独立し、真理を追及し真実に立脚して行われるべきものです。それは「原発」問題と重なると思います。

子どもがどうされようとしているのか、今、何を大切にし、どのような視点で、何をすべきなのかを更に考えていきたいと思えます。（練馬・石神井東中）